

# 「分かりやすく伝える力」の育成を目指したグループウェア活用による評価の在り方の研究

情報教育研修課 長期研修員 渡邊敬子

## 1 研究主題設定の理由

コンピュータやネットワークの進展に伴い、個人が情報を発信する機会が多くなってきている。このような高度情報通信社会に生きる児童・生徒には、送り手の立場や目的を理解して情報を正しく読み取る力、必要な情報を選択する力、受け手の立場に立って情報を伝える力等が求められている。国や県でもこれらの力を育成するための施策が打ち出されており、取組が進められている（注1）。

近年、自分の伝えたい情報が受け手に正しく伝わらず誤解が生じてしまう問題が顕在化し、これらの力の中でも、特に、受け手の立場に立って情報を分かりやすく伝える力の重要性が注目されている。

この「分かりやすく伝える力」を育成するために、小学校では各教科等で分かったことや自分の考えを他者に伝える活動を積極的に行っている。そして、その活動の中で分かりやすい伝え方を段階的に指導する、各種のメディアを利用して伝える経験をさせる等様々な手だてが実践されている。本研究では、これらの手だての中で評価を学習活動に積極的に取り入れることで「分かりやすく伝える力」の育成を考えた。評価は教育目標を達成させるために重要な役割を担っており、これまでも評価を行うことで「分かりやすく伝える力」の育成を図ってきた。しかし、教育課程審議会答申において評価方法の工夫改善の重要性が述べられているように、より有効な評価の在り方を探る必要があるのではないかと考えた。

この評価方法の工夫改善として、グループウェアを評価の手段として活用したい。グループウェアは、文書処理機能や電子メール機能、電子掲示板機能等を兼ね備えたソフトウェアであり、校内LANの整備に伴い学習を支援するソフトウェアとして学校現場でも注目され始めている。これらの機能を活用して情報を共有・交換し、効果的な相互評価や自己評価を行うことで「分かりやすく伝える力」の育成を図ることができるのではないかと考えた。また、グループウェアの活用は、作成物を容易に修正できるというコンピュータの特性を生かすことで、評価後の作成物の改善にも期待できる。

以上より、グループウェアを活用した評価が、「分かりやすく伝える力」の育成に効果があるかどうかを検討し、この力の育成に資することを目的として研究主題を設定した。

## 2 研究の目的

「分かりやすく伝える力」の育成を図るための、グループウェアを活用した評価方法を探る。

## 3 研究の方法

### (1) 「分かりやすく伝える力」の分析と評価の観点の設定

「分かりやすく伝える力」を学習指導要領等から明らかにし、その要素を分類して評価の観点を設定する。

## (2) 「分かりやすく伝える力」の育成を目指した評価方法の構想

観点ごとに評価の指標を作成し、グループウェアを活用した評価方法を構想する。

## (3) 研究授業による検証

「分かりやすく伝える力」の育成が期待できる教科から、指導する単元を抽出し、その中から研究授業を行う。「分かりやすく伝える力」が向上したかどうかを評定やアンケート結果から確かめる。また、明らかになった課題を解決するための方策を探る。

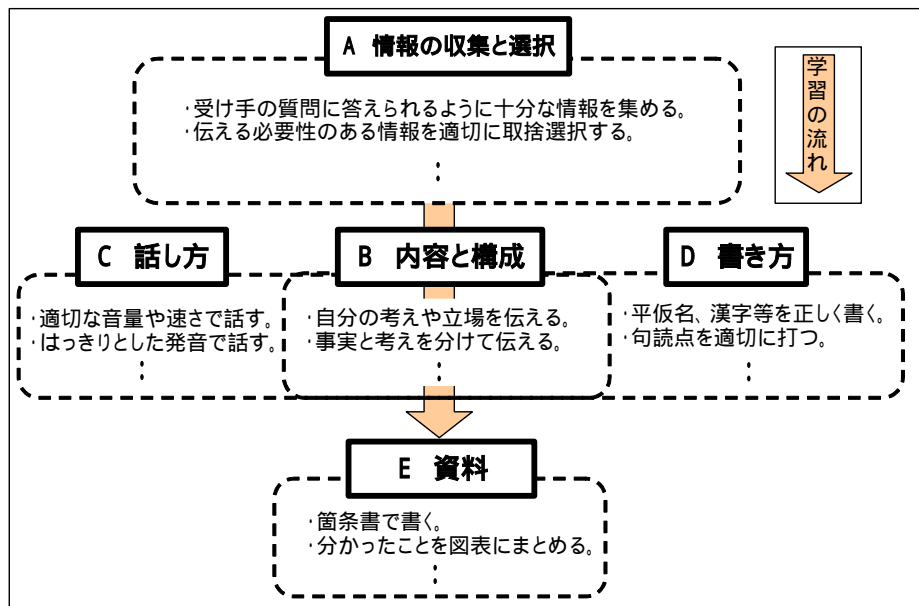
# 4 研究の内容

## (1) 「分かりやすく伝える力」の分析と評価の観点の設定

「分かりやすく伝える力」を育成するためには、「分かりやすく伝える力」とは具体的にどのような力であるのかを探る必要がある。そのため、小学校学習指導要領（各教科の解説を含む）、国立教育政策研究所が作成した「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校）」、静岡県内の小学校で使用されている各教科の教科書、及び静岡県評価規準モデルから「分かりやすく伝える力」を構成する要素の洗い出しを行った。これらの資料から、「分かるように伝える」「正確に伝える」「分かりやすく表す」等、「分かりやすく伝える力」に関する目標、内容、評価規準を抽出した。

そして、評価の観点を設定する目的で、同類の要素ごとに分類した。情報の収集と選択に関する要素、伝える内容とその構成に関する要素を国語、社会、理科、生活から抽出した（資料1のA、B）。また、分かりやすい話し方や書き方に関する要素を国語から抽出した（資料1のC、D）。さらに、提示したり文章に添えたりする資料に関する要素

【資料1】「分かりやすく伝える力」の構造



注1) 筆者が作成

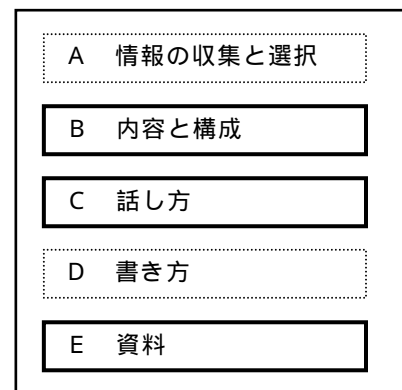
注2) 破線内は要素の例

を国語、社会、算数、理科、生活、図工から抽出した（資料1のE）。これらの分類した要素を学習の流れに沿って構造化し、資料1に示した。そして分類時に項目立てた「情報の収集と選択」「内容と構成」「話し方」「書き方」「資料」を評価の観点とすることにした。

「分かりやすく伝える力」を分析する中で、これら5観点に分類された要素は独立したのではなく、互いに関連性があることが分かった。したがって、「分かりやすく伝える力」の育成に当たっては、各観点の要素を複合的に、かつバランスよく身に付けさせることが必要である。

なお、静岡県において、話して伝えることに抵抗がある児童の割合が高いことが分かった（注2）。また、在籍校の児童の実態を見ると、資料の文字を小さく書いている、参考図書の文章を写している等、分かりやすい資料を作成することについて意識が低い児童が多いことが分かった。したがって、本研究では、資料を提示しながら話して伝える力の向上を目指し、先に設定した5観点の中で、特に、「内容と構成」「話し方」「資料」の3観点を中心に研究を行っていくことにした（資料2）。

【資料2】本研究で検証を行う観点



## (2) 「分かりやすく伝える力」の育成を目指した評価方法の構想

### ア 評価に使用するループリックの作成

次に観点ごとに評価指標を作成した。「ポートフォリオ評価を活用した指導の改善、自己学習力の向上及び外部への説明責任に向けた評価の工夫」（国立教育政策研究所）では、評価を行うための有効な評価指標としてループリックを示している。ループリックとは、達成目標である評価規準について児童がどの程度達成したかを判断するために、評価基準を得点化して収めた評価指標である。児童も使用するという視点で作成すれば、自己評価、相互評価、教師による評価において使用することができる。したがって、これらの評価に使用できるようなループリックを次の手順で作成した。

観点ごとに「分かりやすく伝える力」を構成する要素を学年順に並べる。

各要素を児童が具体的にイメージできるような言葉に直して評価規準を設定する。

評価規準について「できた」という判断を2点とする。予想される学習状況で2点より優れた表れを「よくできた」3点とし、努力を要する表れを「がんばろう」1点として、3段階の評価基準（評価語）を設定する。評価語は、自分や友達の学習を振り返って判断できるように、「した」という表記にする。

総得点や学習の到達状況、友達への励まし等を具体的に記入する欄をループリックの最終に設ける。

作成したループリックの中で「話し方」のループリックを資料3に示した。

【資料3】作成したルーブリック（抜粋）

観点A	分かりやすく伝えるために調べ学習を行いましたか。	観点B	分かりやすい内容や話の組み立てでしたか。
観点C	分かりやすい話し方でしたか。	観点E	分かりやすい「見せる資料」(注1)でしたか。
観点C		分かりやすい話し方でしたか。	
評価規準	3 (よくできた)	2 (できた)	1 (がんばろう)
聞いている人を見て話す。(3)(注2)	聞いている人の方をよく見て話した。	聞いている人の方をなるべく見て話した。	聞いている人をほとんど見ないで話した。
接続語を使って話す。(4)	接続語(そして、しかしなど)を正しく使って話した。	接続語(そして、しかしなど)を使って話した。	接続語(そして、しかしなど)を使わずに話した。
一文を短くして話す。(5)	必要に応じて一文を短くして話した。	一文を短くして話した。	一文を長くして話した。
評価基準(評価語)			

注1)「見せる資料」とは、グループウェアで作成した資料を指す。

注2)評価規準の欄の( )内の数字は、その学年から評価規準を使って評価ができることを示す。

## イ グループウェアを活用した評価方法の構想

児童・生徒用のグループウェアの中から3社(SU社、SHA社、AS社)のグループウェアの機能を調べ、活用方法を検討した。グループウェアには、プレゼンテーション機能、電子掲示板機能、電子メール機能等がある。そして、これらを活用できる場面としては、資料の作成、改善、及び提示、そして評価が考えられる。具体的な活用方法としては、作成した資料を電子掲示板に載せておくことによって、それを評価する児童や教師は、自分の都合のよい時間と場所で、その評価を行い、結果を本人に送信することができる(資料4)。

この検討結果を基に、資料5に示すように、「分かりやすく伝える力」の育成を目指した「話し方」と「資料」の評価方法を構想した。

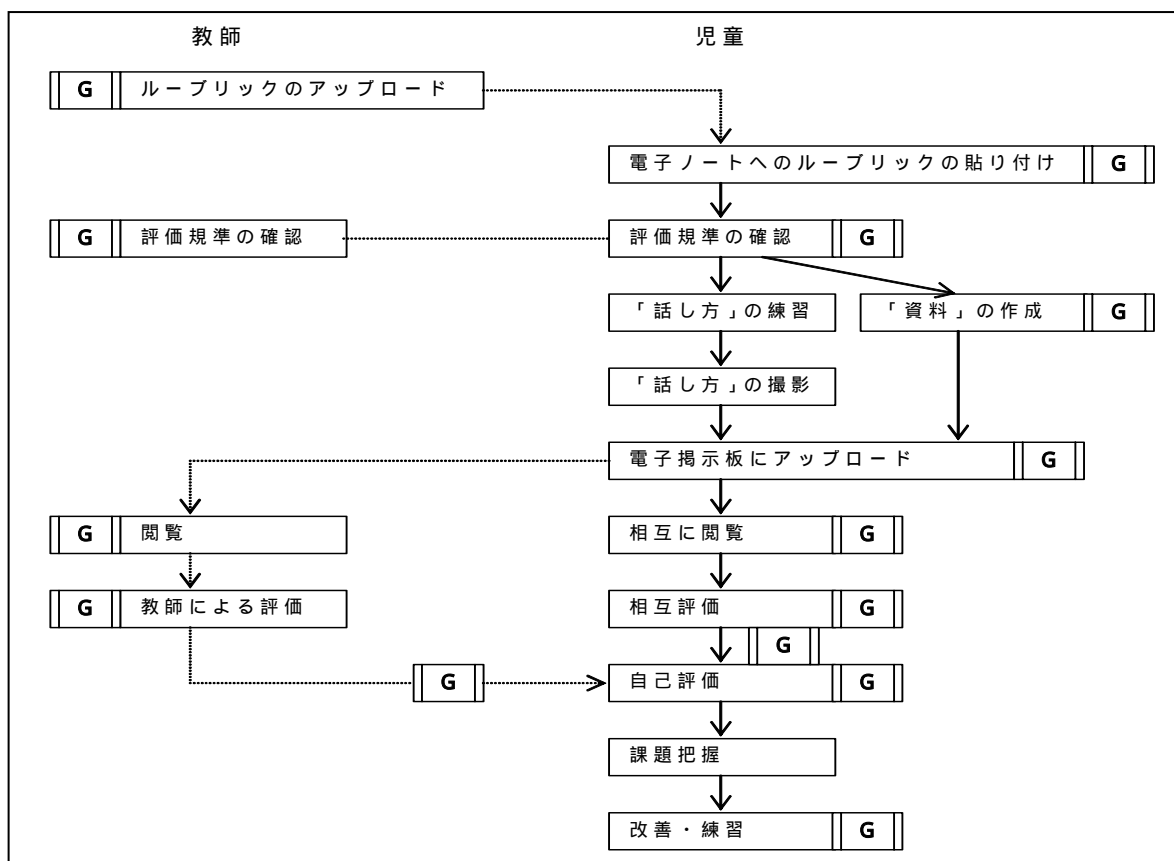
【資料4】グループウェアの活用方法

機能	活用場面	活用方法
プレゼンテーション機能 (文書処理機能と図形処理機能を含む)	・資料の作成 ・資料の改善 ・評価  ・資料の提示	・伝える際に提示する資料を作成する。 ・評価結果を基に資料を改善する。 ・デジタルカメラで撮影した伝える様子を電子ノート(注1)に貼り、再生して評価を行う。 ・作成した資料を閲覧する。 ・作成した資料をプロジェクタで提示して伝える。
電子掲示板機能	・評価	・本時に使用するルーブリックを掲示板に載せる。(教師) ・ルーブリックを電子ノートに貼り、本時の評価規準を確認する。 ・伝える様子と作成した資料を掲示板に載せて、ネットワーク上で評価を行う。
電子メール機能		・評価結果を本人に伝える。

注1)電子ノートとは、グループウェアで作成したネットワーク上の個々のノートを指す。

注2)右の資料を参考にして筆者が作成 『生きる力を育てるデジタルポートフォリオ学習と評価』

【資料5】「分かりやすく伝える力」の育成を目指したグループウェア活用による評価方法の構想



注) [G] は、資料4に示したグループウェアの活用

なお、グループウェアを活用して評価を行うに当たって、児童は電子ノートへのルーブリックの貼り付けや映像の取り込み等、必要なコンピュータ・リテラシーを身に付けておく必要がある。したがって、教師はコンピュータ・リテラシーについて系統的な指導を行う必要があるため、コンピュータ・リテラシー指導計画を作成して、これに基づいた指導を行っていくことが重要である。本研究は、グループウェアで資料を作成し評価するという学習活動から、第3学年以上における研究が妥当と考えた。第1学年及び第2学年においては、各学年に位置付けられた「分かりやすく伝える力」の要素とコンピュータ・リテラシーを身に付けておく必要がある。

### (3) 研究授業による検証

#### ア 育成が期待できる教科から単元の抽出

話して伝える学習活動は各教科等で積極的に行われている。本研究では、これらの中で、相手に分かるように話すことが各学年の指導内容に位置付けられている国語で研究を行うことにした。まず初めに、平成17年度に静岡県内の小学校で使用される3社の3年生以上の国語教科書から、育成が期待できる単元の抽出を行った(資料6)。抽出した単元は、その導入で教材文の要旨を読み取って、その内容に関心を持ち、自分の設定した課題について調べ学習を行い、分かったことや自分の考えを他者に伝えるという学習展開をとっている。

【資料6】第4学年で育成が期待できる単元と学習活動例（抜粋）

(M教科書) 単元名 学習活動例	(K教科書) 単元名 学習活動例	(G教科書) 単元名 学習活動例
<b>調べて発表しよう</b> 校外で取材活動を行い、点字や点字ブロックの写真を撮影し電子ノートに貼る。(施設等の写真を利用する際は許諾を得ることを指導する。)電子ノートに分かったことや自分の考えを加え資料を作成する。資料をスクリーンに提示しながら話す。	<b>見方を変えて話し合おう</b> 身の回りの便利な道具や設備を写真撮影したり、利用者にインタビューした結果をグラフにまとめたりする。これらを電子ノートにまとめて資料を作成する。コンピュータのモニターに資料を提示してポスターセッションを行う。	<b>中心をはっきりとさせて伝えよう</b> 伝えたい場所の様子が伝わるような写真を撮影し、電子ノートに貼る。(施設等の写真を利用する際は許諾を得ることを指導する。)分かったことを整理し、グループで話し合っって話の組立を決める。電子ノートに自分たちの考えを加え資料を作成する。グループ内で分担を決めて発表の練習を行う。資料をスクリーンに提示しながら話す。

イ 抽出した単元の中から研究授業の実践

「分かりやすく伝える力」の育成における、グループウェアを活用した評価方法の効果を検証するために、抽出した単元の中から研究授業を行った。

(ア) 指導計画

以下の指導計画で、在籍校の第5学年において研究授業を行った。

【資料7】単元名「伝え合って考えよう」指導計画（M教科書、20時間）  
（平成16年度の教科書では単元名「地球環境について考えよう」）

次	学習活動（は評価・改善に関する活動）	評価の観点
1	単元の目標を確認する。教材文の要旨を読み取る。環境問題に関心をもつ。	情報の収集と選択
2	自分の調べ学習のテーマを決める。発表会までの計画を立てる。	情報の収集と選択
3	調べ学習を行い情報を集める。自分の考えを加えて付箋紙に書き留める。	情報の収集と選択
4	ループリックの内容を確認する。 情報を分類整理し、伝える内容と話の構成を決める。 友達と話を聞き合っって相互評価を行う。 自分の「内容と構成」の課題を把握して改善する。	内容と構成
5	ループリックの内容をグループウェアで確認する。 電子ノートで「資料」を作成する。 「資料」の相互評価を行い、結果をメールで本人に伝える。 相互評価の結果を参考にして自己評価を行う。 自分の作成した「資料」の課題を把握する。	資料
6	ループリックの内容をグループウェアで確認する。 作成した「資料」を提示しながら、「話し方」の練習をする。 伝える様子をデジタルカメラで友達と撮影し合い映像を電子ノートに貼る。 「話し方」の相互評価を行い、結果をメールで本人に伝える。 相互評価の結果を参考にして自己評価を行う。 自分の「話し方」の課題を把握する。	話し方
7	自分の「資料」と「話し方」を改善する。 伝える様子を再度撮影し合い、映像を電子ノートに貼る。 改善した「資料」や「話し方」について自己評価を行う。	話し方 資料
8	資料を提示しながら4年生に伝える。	

注1) 作成したループリックから10項目を抽出して評価を行う。

注2) 6次の撮影は3、4人のグループで行うため、撮影者・評価者・被評価者と役割を決め、直接対面しての評価も行う。

# (イ) 児童の表れと評価の感想

研究授業における授業者の投げ掛けと児童の表れを資料 8 にまとめた。

【資料 8】授業者の主な投げ掛けと児童の主な表れ

次	授業者の主な投げ掛け ・ 児童の主な表れ	活動の様子
4 次 1 時	<p>分かりやすい話になるように内容と組立についてアドバイスをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理由、内容、結果、考えという順で話せるように頑張ってください。</li> </ul> <p>友達のアドバイスを参考にしてこれから頑張っていきたいことを確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大事な要点だけを話そうにしたい。自分ではうまく話せたと思っただけ、友達に聞いてもらって直さなければいけないところが見つかった。</li> </ul>	 <p>(相互評価を行う。)</p>
5 次 3 時	<p>作った「資料」を掲示板に載せて、アドバイスをし合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>字が目立たないので背景の色を変えた方がいいです。</li> </ul> <p>アドバイスを参考にして「資料」の振り返り(自己評価)をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「文章を減らそう」とアドバイスされたので直したいです。</li> </ul>	 <p>(コンピュータで資料を作成する。)</p>
6 次 2 時	<p>伝える様子を撮影し、電子ノートに貼ってアドバイスをし合おう。</p> <p>アイコンをクリックすると映像が再生される。</p>  <p>(デジタルカメラで伝える様子を撮影し合う。)</p> <p>アドバイスを参考にして自分の「話し方」について振り返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二人の友達から「聞いている人を見た方がいい」とアドバイスされました。こうした方がいいということが分かりました。</li> </ul> <p>相互評価を行い、「話し方」の良かった点や改善すべき点を記述する。</p>	 <p>(デジタルカメラで伝える様子を撮影し合う。)</p> <p>相互評価を行い、「話し方」の良かった点や改善すべき点を記述する。</p>
7 次 2 時	<p>「資料」と「話し方」を直して振り返りをしよう。</p> <p>1 回めの映像の横に 2 回めの映像を貼り、「資料」と「話し方」の向上や課題を確認する。</p>  <p>(グループウェアで自己評価をする。)</p>	 <p>(グループウェアで自己評価をする。)</p>

単元終了後、グループウェアを活用した評価が役立ったと感じた児童の割合は全体の96%を占めた。役立った主な理由から、児童がグループウェアを活用した評価の有実性を実感しながら学習を行ったことが分かる（資料9）。

【資料9】グループウェアを活用した評価が役立った主な理由

- ・ ビデオボタンで伝えている様子を簡単に見ることができ、直した方がいいところを確かめられたから。
- ・ 自分や友達の話や資料のどんなところを見て、どう直したらいいかが分かったから。
- ・ 自分では気が付かない直した方がいいところをすぐに教えてもらったから。
- ・ みんなからのアドバイスなのでそうすればいいと思えるから。

(ウ) 研究授業の成果

a 「分かりやすく伝える力」の向上

各評価項目の評定の変容を把握するために、「話し方」と「資料」について1回めの評定と改善後の2回めの評定を集計した（資料10）。20の評価項目のうち授業者による「見出しの設定」の評価以外は、すべての評定が上昇した。

評定が上昇した理由として、以下の3点が挙げられる。

- ・ 複数の児童と迅速に相互評価をすることができた。
- ・ 複数の児童からの同様の評価により、評価結果の正当性に納得して改善することができた。
- ・ 動画貼り付け機能を活用することで、映像を何回も振り返ることができ、自分や友達の課題に気付くことができた。

具体的に「資料」がどのように向上したかを確認するために、抽出児の相互評価結果、自己評価結果、評価後の改善、改善後の自己評価結果を追跡した。その結果、資料11に示すような「資料」の向上が見られた。例えば、A子は、二人の児童から、文字を少なくした方がいい、文章を短くした方がいいという評価を受けた。そして、1回めの自己評価では、文字の量に関する評価項目の評定を1とし、「分かりやすくするために、文章を箇条書にする必要がある。」という自分の課題を把握し、改善を図った。その結果、2回めの自己評価では、評定が2に上昇した。資料11の改善後の「資料」は、評価前と比較して分かりやすい「資料」になった。

【資料10】「話し方」と「資料」の評定の変容

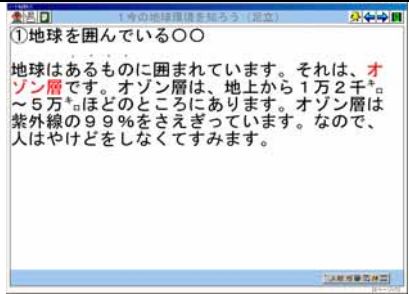
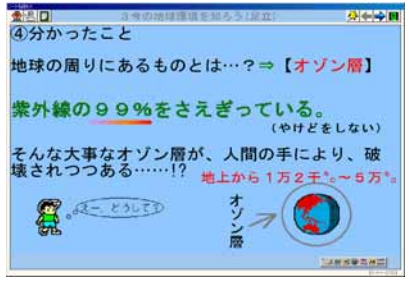
観点	評価項目	授業者			児童(自己評価)			差
		1回め	2回め	増減	1回め	2回め	増減	
話し方	1 言葉遣い	2.2	2.3	+0.1	2.2	2.6	+0.4	
	2 声の大きさ	1.9	2.3	+0.4	2	2.4	+0.4	
	3 話す速さ	1.8	2.1	+0.3	1.9	2.3	+0.4	
	4 明瞭さ	2.1	2.3	+0.2	2	2.3	+0.3	
	5 明るい表情	1.8	2.1	+0.3	1.7	2.1	+0.4	
	6 視線の向き	1.7	2.3	+0.6	1.6	2.1	+0.5	
	7 接続語の使用	1.4	1.7	+0.3	1.6	2.0	+0.4	
	8 受け手の理解できる言葉の使用	1.5	1.7	+0.2	1.8	2.2	+0.4	
	9 文の長さ	1.6	1.8	+0.2	1.8	2.2	+0.4	
	10 気持ちを込めた話し方	1.4	1.9	+0.5	1.8	2.1	+0.3	
資料	1 文字の大きさ	2.4	2.7	+0.3	2.3	2.7	+0.4	
	2 文字修飾による文字の強調	2.1	2.2	+0.1	2.3	2.5	+0.2	
	3 背景や吹き出しによる文字の強調	2.1	2.5	+0.4	2.3	2.5	+0.2	
	4 見出しの設定	2.1	2.1	0	2.0	2.2	+0.2	
	5 見出しの工夫	1.2	1.3	+0.1	1.7	2.0	+0.3	
	6 文字の量	1.9	2.4	+0.5	1.7	2.4	+0.7	
	7 正しい文字入力	2.5	2.8	+0.3	2.5	2.7	+0.2	
	8 情報の図表化	1.1	1.5	+0.4	1.2	1.9	+0.7	
	9 見やすさ	2.1	2.4	+0.3	1.8	2.4	+0.6	
	10 目次の設定	2.5	2.7	+0.2	2.3	2.6	+0.3	

注1) 数値は全児童の評定の平均値。

注2) 評価項目は、資料3の評価規準に対応している。



【資料11】「資料」の評価結果と改善の様子

A子の作成した資料(抜粋)												相互評価の内容	字が太くて、とてもはっきりしています。										
	大切なところは目立つように直すといいです。												2・3参照										
	文字を少なくして見やすくしよう。												6参照										
	文になっているので短くしよう。												6参照										
	分かったことを図にまとめるといいと思います。												8参照										
自己評価	1回目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均											
	振り返り	2	2	2	2	2	1	3	1	2	2	1.9	文章になってしまったので、箇条書で書きたいです。 今度は表かグラフか図を作ってまとめたいです。 どのページも正しい言葉で書きました。 教えてもらったことを見てみると直した方がいいと思いました。										
改善した資料												授業者の評価	(評価 1) ・文字を大きくして読みやすくした。 (評価 2) ・文字色や大きさを変えて大切な言葉を強調させた。 (評価 3) ・下線や【 】を使って大切な言葉を強調させた。 ・背景色を付けた。 (評価 6) ・文章を箇条書に表し、文字の量を少なくした。 (評価 8) ・オゾン層の様子を図解した。 (評価 9) ・行間を開けて見やすくした。										
	自己評価	2回目	3	3	3	2	2	2	3	2	3		3	平均	2.6								
振り返り	大切な言葉は線を引いたり太くすることができました。 図を入れて文を短くしたらとてもすっきりしました。 アドバイスをもらって直した方がいいところを見つけられました。																						

注) は資料10の「資料」の評価項目の に対応している。

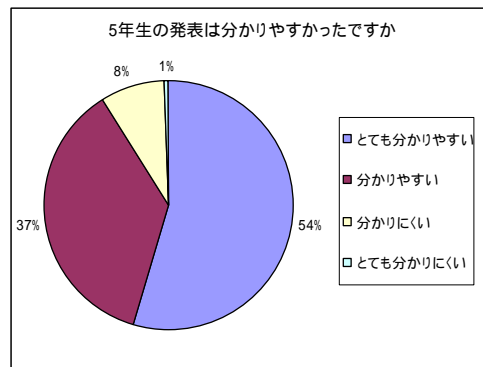
なお、受け手である4年生に、発表が分かりやすかったかどうか意識調査を実施した結果、資料12に示すように、分かりやすかったという感想を多数得た。分かりやすかった理由として、「内容と構成」「話し方」「資料」の3観点から満遍なく感想が得られた。

これらの結果から、研究授業を行ったことで、「分かりやすく伝える力」が向上したと判断した。

b 「分かりやすく伝える力」を構成する要素に対する児童の意識の変容

研究授業前後に「分かりやすく伝える力」を構成する要素に対する児童の意識を調査したところ、資料13のような結果を得た。このことより、授業を行うことによって、要素に対する意識が高まったことが分かる。また、授業前に意識されていなかった「内容と構成」「資料」の観点についても、観点ごとに評価し改善することで、これらの観点の要素の重要性を認識させることができた。

【資料12】受け手の意識



注) 調査対象 発表を聞いた4年生

なお、資料13では、理解している児童の割合が低くなった要素があることが分かる。授業前に重要な要素として理解していたにもかかわらず、授業後にその重要性を回答しなかった児童に対して聞き取り調査を行った。その結果、授業後には他の要素に目が向けられるようになり、授業前に重要性を感じていた要素は分かりやすく伝えるためには当然であるという意識に変化していったことが分かった。

### c 児童の意識の変化

研究授業前後に話して伝えることに対する自信の有無について児童に意識調査を実施した。その結果、資料14に示すように、自信がある、または少し自信があると答えた児童が増えたことが分かった。

以上 a、b、c の結果から、研究授業の成果として、グループウェアを活用して評価を行うことで「分かりやすく伝える力」が向上し、各要素に対する意識が高まったこと、その結果話して伝えることに自信をもてるようになったことが挙げられる。

## (I) 授業実践の課題

### a ルーブリックの内容に関する児童の理解

授業者と児童の評定を比較すると（資料10）概して児童の評定の方が高い。その理由を明らかにするために児童に聞き取り調査を行ったところ、児童に「2はふつう」という意識があることが分かった。

また、授業者と児童の評定に開きが見られる項目があることが分かる（資料10 印：2回めの評定の開きが0.4点以上の項目）。これらについても児童に聞き取りを行ったところ、授業者と児童の間に評価規準や評価語の解釈に違いがあることが分かった。例えば「情報の図表化」の評価項目では、内容に関連した挿絵を挿入することで「できた」と判断した児童がいたことが明らかになった。

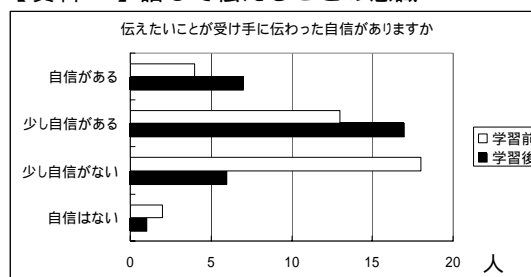
これらより、授業者は授業の導入時に、ルーブリックの内容について児童に十分に説明し正確に理解させることと、「2はできた」という判断を徹底させることが重要である。

【資料13】「分かりやすく伝える力」の要素の理解

要素	観点	「分かりやすく伝えるために大切である」と答えた児童の割合	
		学習前 (%)	学習後 (%)
大きな声で話す	話し方	75.6	65.9
速さに気をつけて話す	話し方	85.4	63.4
はっきりと話す	話し方	58.5	53.7
受け手を見て話す	話し方	19.5	51.2
字を大きく書く	資料	46.3	53.7
字の色を変えて字を目立たせる	資料	9.8	46.3
グラフ、表、図、写真等を入れる	資料	29.3	43.9
文字を少なくする（簡条書にする）	資料	0.0	39.0
順序よく話す	内容と構成	12.2	43.9
受け手が分かる言葉で話す	話し方	9.8	31.7

注1) 調査対象 研究授業を行った在籍校5年3組 40人  
 注2) 回答は自由記述式  
 注3) 学習後に30%以上の児童が大切であると回答した要素  
 注4) は割合が低くなった要素

【資料14】話して伝えることの意識



注) 調査対象 研究授業を行った在籍校5年3組 40人

## b ルーブリックの修正

授業者と児童の評定に開きが生じた原因として「聞いている人が分かるような」といった判断が難しい評価規準や評価語を設定してしまったことが挙げられる。したがって、客観的に評価できるかどうかルーブリックを見直し、修正を図る必要がある（資料15を参照）。

## c 評価規準の焦点化

研究授業では評価項目を10項目に設定したため、向上させたい力が多すぎて児童の負担になってしまった。したがって項目数を減らして評価規準の焦点化を図りたい。児童が常に評価規準を意識できる項目数であり、さらに電子ノート1ページに収まる項目数を考慮し、5項目程度が妥当と考える。

## d 重点項目の設定

発表を聞いた4年生に対する意識調査の結果を見ると、約10%の児童が、発表が分かりにくかったと感じていることが分かる（資料12）。その最も多かった理由は「意味が分からない難しい言葉があったから。」であった。この評価項目に対する授業者の評定も低く（資料10）、参観教員からも同様の指摘を受けた。このように評定の低かった項目については、次に学習する単元では重点項目として位置付け、その力を向上させていく必要がある。

## (オ) ルーブリックの修正

(エ)bの課題を解決し、信頼性を高める目的でルーブリックの修正を行った(資料15)。資料16には、各観点のルーブリックの項目数とその活用をまとめた。

【資料15】修正したルーブリック（抜粋）

評価規準	修正箇所	修正前	修正後	
順序よく伝える。	判定3の評価語	時間ややったことの順序が聞いている人に分かるように伝えた。	「初めに」「次に」など順序を表す言葉を使って時間ややったことの順序で伝えた。	B 1
分かったことの数、順番、形、大きさを伝える。	判定3の評価語	分かったことの数、順番、形、大きさを詳しく伝えた。	分かったことの数、順番、形、大きさから三つ以上を伝えた。	B 6
聞いている人が分かる言葉で話す。	評価規準	聞いている人が分かる言葉で話す。	聞いている人の学年（年齢）に合った言葉を使って話す。	C 15
見出しを工夫する。	判定3の評価語	何を伝えたいのか聞いている人が分かるような工夫した見出しを付けた。	字の色、形、大きさ、興味を引く言葉の中から三つ以上の工夫をして見出しを付けた。	E 13

【資料16】作成したルーブリックの項目数と活用一覧

観点	項目数	活用	グループウェアを活用した評価
A：情報の収集と選択	17	自己評価、教師による評価	
B：内容と構成	23	自己評価、相互評価、教師による評価	
C：話し方	20	自己評価、相互評価、教師による評価	
D：書き方	21	自己評価、相互評価、教師による評価	
E：資料	16	自己評価、相互評価、教師による評価	

## 5 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

「分かりやすく伝える力」の育成を目指した評価に、グループウェアが有効な手段として活用できるかどうか試みた。ループリックを作成したことで、各学年の評価指標を示すことができた。これは、グループウェアを活用しない場合でも評価指標として利用することができる。

また、グループウェアを活用することで、児童は授業者の手を借りることなく数多くの評価を行うことができた。したがって、動画を記録できるデジタルカメラの台数が十分であれば、グループウェアは従来使用している機器よりも、効率的に、活動を振り返ることができる手段であると考えられる。さらに、グループウェアは、評価だけでなく、評価結果の送受信、資料の作成と改善、提示等、活用場面が多いことが分かった。以上より、グループウェアが「分かりやすく伝える力」の育成に効果的な手段であることが分かった。

17年度に使用する国語教科書から、育成が期待できる単元を抽出し学習活動例を示したことは、学習指導要領に示されている「資料を提示しながらスピーチすること」等を実践しようとする教師の参考になると考えられる。

### (2) 今後の研究課題

国語を窓口として研究したが、「分かりやすく伝える力」は他教科や領域においても育成していかなくてはならない。「分かりやすく伝える力」の要素を分析する中で、社会、理科、総合的な学習の時間、特別活動において、グループウェアを活用した評価が可能であることが分かった。これまでの研究の成果を足掛かりとし、グループウェアの更に有効な活用方法を探ったりループリックの修正を行ったりして「分かりやすく伝える力」の育成を図っていききたい。なお、資料16に示した「情報の収集と選択」「書き方」のループリックについては、その有用性を確かめていないので、今後、検証を行っていききたい。

また、近年、児童がコンピュータを扱う授業でチーム・ティーチングの体制が整いつつあるので、個に応じた指導を円滑に行うためにチーム・ティーチングにおける指導計画を作成していききたい。

---

#### 注

- 1) 「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議（第1次報告）」で、情報教育の目標として「情報活用能力」の育成が位置付けられた。その中でも小学校段階では「情報活用の実践力」（課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集、判断、表現、処理、創造し、受け手の状況などを踏まえて発信、伝達できる能力）の育成に焦点を当てている。また、静岡県は「『人づくり』2010プラン」で、公立学校におけるメディア・リテラシー教育の100%実施を掲げている。
- 2) 「魅力ある教科教育を語る報告書」では、静岡県内でスピーチをきらいたと感じている児童の割合が高いことが報告されている。これは意見文や報告文を書くことをきらいたと感じている児童の割合よりも高い。